金　正　日

日本の共同通信社社長の質問に対する回答

全世界の勤労者団結せよ！

金　正　日

日本の共同通信社社長の質問に対する回答

チュチェ91（2002）年9月14日

小泉純一郎首相の訪朝をひかえて書面質問を提起したことに謝意を表します。

あなたが質問したいろいろな問題は小泉首相との対面と会談で論議されるでしょうから、朝・日関係に関する問題についてのみ答えることにします。

現在、世界の耳目は朝鮮に注がれており、わたしと小泉首相との対面と会談に大きな関心が寄せられています。

朝鮮と日本は地理的に近い国であり、歴史的にも遠い昔から互いに往来しながらつながりを保ってきました。しかし、この一世紀の間、朝・日関係は不和と対立のためきわめて不正常な状態にありました。戦後、半世紀以上も朝・日間の不正常な関係が続いているのは、誰にとっても、どの面からみても、百害あって一利もないことです。朝・日関係を正常化し、両国間の善隣友好関係を発展させることは、両国人民の願望と利益に合致しており、先送りすることのできない時代の要請となっています。

朝・日両国は、いずれもアジアに位置する国として、近くて遠い国ではなく、近くて近い隣邦として仲良く過ごし、共存、共栄を図っていくべきでしょう。これはわれわれの意志であり、一貫した立場です。

不正常な朝・日関係を正常化するのはこんにち、両国の政治家に負わされている歴史的使命です。人民の願いと利益のために、

歴史に対し負わされた崇高な使命を果たすために責任ある政治家が大局的な立場に立って決心し取り組むならば、両国のあいだで解決できない問題はあり得ないでしょう。

まもなく小泉首相が平壌（ピョンヤン）を訪問することになりますが、これは朝・日関係を正常化するうえで画期的な契機となるでしょう。わたしは小泉首相のわが国訪問を歓迎し、われわれの今度の対面と会談がりっぱな実を結ぶものと信じています。われわれは、何としても朝・日関係を改善しようとする共通の意志と共同の努力によって、両国関係の歴史に新たなページを開かねばなりません。

朝・日関係の正常化において解決すべき基本的問題は、両国間にからみ合っている忌わしい過去をきれいに清算することです。まる１世紀にわたって積もりに積もった怨みの歴史を伏せて置いたままでは国交正常化の実現も、善隣友好関係の樹立も不可能です。過去を清算するためには、日本によって朝鮮人民が被ったあらゆる災厄と被害を十分に考慮して率直に謝罪し、補償問題も妥当な解決がなされなければなりません。このような基本的な問題がいまだに解決されていないため、両国関係は改善されず、そこからさまざまな複雑な問題が生じたのです。

今、大したこともない問題を持ち出して論難し、互いに拘束されていますが、両国の関係が改善され、相互の信頼が醸成されれば、こうした問題は容易に解決されるはずです。

朝・日間の不正常な関係が解決されれば、日本人が憂慮している安保問題なども問題にはならないでしょう。日本人はわれわれ

の国防力の強化にかなり神経を使っているようですが、われわれの国防政策は徹頭徹尾自衛のための政策です。われわれの武装力は、われわれに手出しをする者に対しては容赦しませんが、誰であれ、われわれに手出しをしない限り、われわれは決して武力を行使しません。日本がわれわれを敵視せず、友好的に向き合うならば、われわれの国防力の強化をいささかも憂慮する必要はありません。

終わりに、日本を訪問する意向があるかという質問ですが、両国の関係が正常化され、好ましく発展するならば、訪問できない理由はないと思います。

この機会に、日本人民に平和と繁栄があらんことを望むというわたしの挨拶を伝えてください。